青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成30年度　第159号　12月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

　青木小学校では毎年４年生、５年生が農村体験を行っています。今年は９月２７日に４年生、１０月４日に５年生が体験しました。

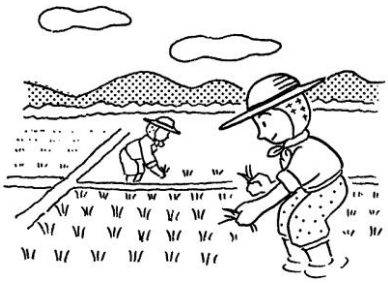
　８月号の「臨床心理士　植田瑞穂先生に聞いてみよう！シリーズその①」ではＡＤＨＤについて掲載しましたが、今月号は「シリーズその②」としてＬＤについての内容もお伝えします。

小学校農村体験の実施にあたって

ＮＰＯ法人信州ええっこ村　宮下　寿章

　青木小学校では毎年農村体験を行っています。今年は９月２７日に４年生、１０月４日に５年生が体験しました。

　戦後の団塊世代として生まれた私の小学生だった頃は、甘いお菓子も少なく、肉といえば家で飼っていた鶏が正月など年に２～３回、魚は塩サンマなど塩蔵品、もちろんテレビ・冷蔵庫・自動車などはない時代でありました。そして、農作業は子どもであっても当たりまえ、学校では、春は「田植え休み」、秋は「稲刈り休み」がそれぞれ１週間程ありました。



　日常では、春の麦踏みや畑の草むしり等々、日曜日はあちこちの畑や田んぼに子どもたちの姿があり、農作業にいそしんでいました。

　学校から帰ると、山羊やウサギの餌の草刈りは毎日の仕事で、かご（しょいぼて）を背負い鎌を持って田んぼや畑の畦へ、など、今思えばよく働いたものだと思い出します。

　それから６０年後の「現代っ子」と見比べると随分変わったものだと思います。食べ物は何でも好きなものを食べられるし、身辺にはスマホなど電子機器があり、便利な世の中になったものです。

　しかし、食べ物は１日３回の食事から身体を造り、活動の源のエネルギーとなります。その原料は主に農業により生産されている米・麦・野菜・果物・肉・卵等でありますが、どのように育てられているか、また、食べ物の塩以外は生命体であることも知ってほしいです。

１年間に国内で食べ残されて廃棄される食べ物は、全国で生産される米の量に匹敵するといわれます。農業者である私たちにとって非常に残念なことです。

食べ物が有り余っている日本の子どもたちに対して、世界には１日１回の食事にも事欠く子どもたちがいること、そして、食べ物が口に入るまでどのくらい手がかかっているか、どのような気持ちで育てているかなど農村体験を通して知ってもらえたらと思います。

「ええっこ（結）」とは、互いに協力して作業等をすることであるので、仲間同士やお世話になる家庭の方との交流で協調することの大切さも学んでほしいものです。

後日、４年生・５年生の皆さんから、お世話になった家庭に御礼状が届きました。４年生は手紙形式で、５年生は新聞形式で書かれていましたが、それぞれの目線で見たこと、発見したこと、感激したことなどが書かれておりました。

私たち大人にとっては当たり前のことが、子どもたちには新発見となり、体験することの重要さを感じました。

臨床心理士
植田瑞穂先生に
聞いてみよう！
シリーズその②

ＬＤについて

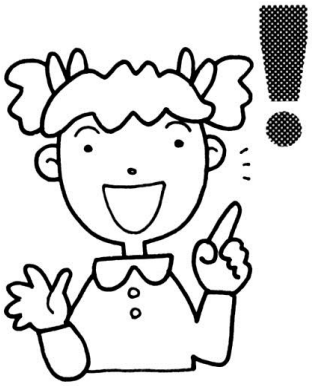
青木村教育委員会　植田　瑞穂

青木村でスクールカウンセラーをさせていただいている植田瑞穂です。今回は LD の話をしたいと思います。

LDという言葉を聞いたことがありますか？LDとはLeaning Disorder の略で日本語では学習障害と言われています。学習障害とは、勉強の出来ない人ではありません。むしろ知的にはほとんど問題がなくて、ある一部の学習だけが苦手であるという障害です。

日本では基本的な学習の能力として、単語を正確に読むこと、スラスラと文章を読むこと、読解力、字を書くこと、言葉を単語のまとまりとして聞き分けること、字の綴りを理解すること、算数の計算、数学の問題を解くことなどを学校で学びます。これらのことは卒業するまでにきちんと学ばなければならないと言われています。実際、これらのことは生活の中でもよく使われています。ただ、LD と診断がつくのは学習の機会の不足や不適切な教育のせいでないことは前提とされています。

LD は基本的な学習的な技能を習得することが困難なため起こります。LD の子どもたちは自分でもなぜうまく字が書けないのか、なぜうまく文字が読めないのかがよくわからず困っていることが多いです。努力が足りないと言われることもしばしばです。例えば、これを読んで下さっている方の多くには、毎日漢字の書き取り練習をして、漢字を覚えたという方が多いのではないかと思います。しかし、書きの LD のある子はどれだけがんばって漢字を書いても、なかなか漢字を覚えることが出来ません。本人も覚えようと努力するのですが、いざテストで漢字を書こうとすると書けません。



しかし、漢字を唱えて覚えると書けるというLDの方がいます。例をあげると、女という字で考えてみると「く書いて、ノを書いて、一を書く」と女という漢字になりますね。そのようにすると、女という字を覚えて書ける場合があるという例です。このように覚え方や勉強の理解の仕方が他の人と少し違うと考えていただけるといいと思います。

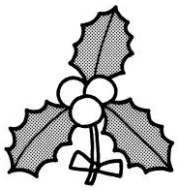
LD の子はがんばっても出来ない自分にがっかりしていたり、傷ついたりしてしまう子が多いです。しっかりしている子で、自分で何でも出来る子でも起こりうることです。

ただ、LD の診断は学校に入学してから下りることが多く、幼少期には分かりにくいことが多いです。LD の確率はそれほど低くなく、5%～15%の確立であると言われています。これは 30 人学級の中に 4 人程度 LD と思われる子がいるという計算になります。LD の場合、LD ときちんと診断がつく子と LD 傾向としてきちんとした診断がつかない子がいると言われています。

LD と診断がつかなくてもその子の学習の苦手さがあることは変わりません。勉強することについては、他の代替手段を検討することもできますので、もし気にあることがあれば、ぜひ相談していただければと思います。

へんしゅうこうき

ＮＰＯ法人信州ええっこ村の皆さんには今年もお世話になりました。農作業は青木村に住んでいてもなかなか経験できないことなので、貴重な体験だと思います。ありがとうございました。これからもこの活動が長く続くといいですね。



「青木村子どもはつらつネットワーク通信」で取り上げて欲しい内容がありましたら、事務局までお知らせください。お待ちしています。